

企業経営者は



住所：〒938-0013 富山県富山市香掛3259
HPアドレス：<http://www.kanayama-m.com/>

代表取締役社長 金山 宏明氏

◆当社の目指す姿◆

当社の理念は、ヒューマンソリューションテクノロジー「人間・解決・技術」、すなわち人間がいるから技術やサービスが必要であり、当社は人に必要とされる技術、製品作りを通して、社会に貢献することが目的です。

理念における「人間」の幸せ、感動とは、あらゆる人々のために自分を捨てて努力し、感動を与えることによって得られるものです。人間関係において、様々な疑問や課題が生じた時に、「解決」の手段の1つとして「技術」があり、「技術」には「付加価値」を付けることで社会から認められるものになります。

私の考える「付加価値」とは「価値観」と「満足感」の双方が満たされて発生するものと考えています。場所と時間が巧みかみ合って得られるものが「価値観」であり、その「価値観」に納得し、感動することが「満足感」と考えます。

例えば、何故東京ディズニーランドに多くの人が繰り返し足を運ぶのか。それは、その場所が今の時代にとって楽しめる場所として「価値観」が得られており、人混みや待ち時間があっても、納得が出来る「満足感」があるためではないでしょうか。

今後最高「価値観」を探索し、お客様にとって「満足感」のある製品を提供していきたいと思っています。

また、当社は常に夢を持ち続ける会社でありたいと考えています。人は働くことで他の方に認めて頂き、存在意義を明確にするものです。

例えば近年、大学を簡単に辞めてしまう学生が増えています。これは夢

が明確になっていないためではないかと感じます。大学を卒業することを夢としている学生がいますが、これは目的です。言われたことをただ行うだけでは本当の夢とは言えません。ある分野における問題において、なんとか解決しようとして必死に「考える」ことが夢を持つことだと考えます。

夢を持つことは企業活動を行う上で商品、サービスを生み出すに当たって必須要件です。そのため、私達は常に夢を持ち続ける会社でありたいと考えています。

◆今後の社会と産学連携◆

今後は企業、大学、地域がもっと境界線をなくし、マッチングしていかなくてはならないと感じています。

産業界では業種の境界線がボーダレス化しています。これは100円ショップ、ドラッグストア、家電量販店に食品や飲料水が取り扱われていることが例に挙げられます。1つの業種に関連性のない商品、サービスが取り扱われるケースがとて増えています。今後は様々な業界がマッチングしていく社会になっていくと推察されます。

当社では、1つのチャレンジとして、現在あるショッピングセンターとのマッチングを計画しています。館内に工業製品を展示し、見て触れるスペースを作りました。このスペースから産業界とのマッチングだけではなく、見て触れることで地域の方々に当社の印象を持って頂きたいと考えています。

また大学、企業間においても境界線をなくしていきたいと思っています。現在研究協力が情報公開して下さっているため、当社も取り組みやすい環境

となつています。今後はこのような取り組みがマーケティングやデザイン、流通販売分野等、他分野にわり強化されていけば良いと思います。今後の富山県立大学の取り組みにも期待しています。

◆時代を読み取った人材育成◆

私は最近特に感じることは、資格取得や研修等の人材育成も大切ですが、これからは人の心を鍛えていくメンタルケアに重点をおいた人材育成が必要な時代となつてきているのではないかと感じます。

近年、大学だけでなく企業でも簡単に退職する新卒採用者が多い現状があります。その背景の1つとして「躁鬱(そううつ)」のような精神的病気が増えていることが挙げられます。このようなことから、社員のメンタルケアまずは仕事、プライベート双方で話を聞くことが必要ではないかと考えています。私自身、それが実行出来ていないのは定かではありませんが、人材育成のテーマとしていきたいと思っています。

また、外国人労働者が増えている中で、中国人の方から学ぶ点が多々あります。「現実的な夢を持っている」「他者への恩義に溢れている」「中国人同士のネットワーク網」等、素晴らしい点が多々あります。当社の社員にもその良い点を実感出来る場を設け取り入れて欲しいと感じています。

今後ますます混沌とした時代を迎え学校は勉強する場所、会社は金を稼ぐところといった図式は崩れていきます。企業の存続を考えるならば、技術交流ばかりではなく、さらに奥深い産学連携が必要なのではないでしょうか。

想いを語る!



住所：〒939-2251 富山県富山市大久保61
HPアドレス：<http://www.saito-inc.com>

代表取締役社長 齊藤 恵三氏

◆富山のニューファクトリー第1号◆

かつて通産省の立地指導課長をされていた橋本久義さんが提案した構想の中に、「ニューファクトリー運動」というものがありました。この運動の趣旨は、3K1Y(きつい、汚い、危険)を理由とした若者の製造業離れに歯止めをかけるべく、若者が働きやすく、誇りを持てるような、「見栄えのする工場」にすることにあります。

私は、この橋本氏の考えに賛同し、平成6年当時富山市赤田にあった本社工場を新たなコンセプトのもと、現在の場所に新工場を建設、移転することを決めました。この新たなコンセプトとは、①人間中心の工場②地域社会に開かれた工場③社会に貢献する工場の3点で、これらを生工場建設の基本概念としました。

◆顧客安心、そして従業員快適な工場を目指して◆

以前の工場のレイアウトは、どうすれば生産性が上がるのか、効率性を最優先に考えていました。しかし、新たな工場のレイアウトを考える際に重要視したのは、「どうすれば従業員が快適に働けるか」「どうすれば顧客が安心するか」ということです。工場内の色調、照明も落ち着いた雰囲気だとも、常時音楽が流れ、従業員が明るく働きやすい作業場や更衣室、立山連峰を望むことのできる開放的な食堂、休憩室等、従業員のための設備が充実しています。私は、社員にとって工場は

単なる生産の場ではなく、生活の場でもあると考えています。そのため、会社として、経営者として、従業員に対して「働き」「学び」「遊び」のバランスの取れた環境をつくることが1つの使命であると考えています。

また生産面においても、当社の顧客である製薬会社の厳しい要求に応え、安心感を与えるため、当時は珍しかったクリーンルームでのプラスチック成形を実現し、ppb(10億分の1)レベルの管理を続けています。

本社工場は、物流ゾーン、生産ゾーン、リフレッシュゾーンの3つのゾーンからなります。量産体制を確保するため、現在の生産ゾーンはさらに増設を予定し、その増設部分では、金型の専用倉庫も確保したいと考えています。当社はお客様から数多くの金型を預かり、プラスチック成形を行っています。これがユーザーからの信頼を得ることに繋がるのです。

また、皆さんに利用してもらえぬ工場を作っていくという考えから、工場内の緑地600坪を公園として地域に開放したいと考えています。

◆コルクからプラスチックへ◆

当社は、昭和21年に富山市大泉に「斉藤コルク製作所」として創業しました。社名からも分かるように、薬品用ガラス瓶のコルク栓の製造・販売を行っていました。富山県は「越中富山の薬売り」としても知られているように薬品メーカーが多く、当社の作るコルク栓は順調に売れていきました。

しかし昭和35年に大きな転機が訪れます。その頃、薬品は瓶ではなくポリセロといった資材で薬を密閉包装するようになり始めていました。そこで当社でも当時新しく登場したプラスチックを薬剤容器へ応用することになりました。スチロール樹脂で清涼剤容器を作り、高密度ポリエチレンで目薬容器を作ったのが、当社におけるプラスチック製品製造のはじまりです。

◆モノづくりの楽しさ◆

私は歴史からモノづくりを考え、そして未来を予想することが必要と考えています。例えば、現在のプラスチックに至る以前のものに、「乾漆」と呼ばれる技法があります。織物と漆を使って形を作り出すその技法は、飛鳥時代に中国から伝えられました。奈良の法隆寺には、飛鳥時代に中国大陸から伝わった漆の技術で多くの仏像が造られました。これがプラスチックの原点なのです。このような原点を大事にしていきたいと思っています。

また、モノづくりにおいては社長や社員が「いいものを見る」ことが大切です。いいものを見れば、その中からより良いものが生まれるのです。以前富山市赤田にあった工場は現在空き状態ですが、いずれはあの場所でもた研究活動をしたと思っています。そして生涯バイオニアでありたいと思っています。